

平成30年度

講評と対策

入学試験問題

四天王寺中学校

国語

問題内容

配点

出題の意図

一 『うれしい悲鳴をあげてくれ』
いしわたり淳治(筑摩書房)

36点

人の「記憶」を話題とし、「夢」とは何か、という筆者の考えを読み取る。

二 『屋上のウインドノーツ』
額賀 滂(文春文庫)

40点

幼い頃から「瑠璃ちゃん」の「金魚のふん」だった主人公「志音」の心の変化を読み取る。

三 『物語ること 生きること』
上橋菜穂子(講談社青い鳥文庫)

44点

「境界線に立つ」ということについて、筆者の考えを読んでいく。

各問題講評

【書き取りについて】(正答率75%)

●【一】の間1のb「小学校入学をきに」の正答率が低く、「期」「気」という誤答が目立った。
日常使わないような文章語に注意をする必要がある。

【抜き出し問題】

●今回、抜き出しミスや字数に合うことだけで反射的に解答したものが多く見られた。問われていることをしっかり理解したうえでの解答をしてほしい。

一

問3(正答率60%)

(2)は「友達すらリセットされてしまった」という誤答が目立った。

問5(正答率40%)

多かった誤答は「家でごろごろしている」。傍線部の言い換え箇所とその理由とが区別されていないと考えられる。

問7(正答率50%)

「一語で抜き出しなさい」という意味がわかっていないのかと思われる解答が目立った。誤答例としては「純真な心」「黒いかげ」。

二

問5(正答率23%)

1と2が対句的であることに気づかない解答が多かった。2の「金魚のふん」は「ふん」では意味が全く違ってくるが、「ふん」としか書いていない解答も目立った。

三

問5(正答率75%)

「先頭を走る牛」のところに「前にいる牛」と書く解答もあった。

問8(正答率70%)

設問は「どのような例で説明されていたか」とあるが、「例」を見落とし、一般論や並列的な言い換え部分を抜き出す解答も目立った。また、正しく「例」の部分に目をつけることができても設問の空欄に入れるのにつながりの悪い抜き出し方をしているものもあった。

問10(正答率50%)

問いに対して正確に全文を見直す力が必要である。

【客観問題(選択肢)】

●比較的正答率は高かった。
正答率の低かったもの

一

問9(正答率30%)

多かった誤答は「B」と「D」。ありがちな「夢」や「自分らしさ」ということばに飛びついた感がある。

二

問6(正答率40%)・問7(正答率30%)

どちらも心情の読み取りができていなかった。

【記述問題】

●記述問題に関しては、まず傍線部を正確に読み取り、問われていることを正確につかんで解答することが大切である。

二

問1(正答率67%)

多かった誤答…「娘にがんばれと伝えるために、まず自分がかんばろうと考えたから。」→「娘が生きることに一生懸命じゃないと知り」の要素が不足している。その他、「がんばれ」と伝える相手が誰かを明示できていないものも多く見られた。本文中の語句を適切につなげてわかりやすい文を作ることが不得手なように感じた。単なる抜き出し、または前後のつながりの不自然なものも目立った。

次年度入試 アドバイス

今後の大学入試改革を見据えたうえで、本校では現代社会の問題に関わる文章を出題する傾向があります。特に、小学生の話し言葉にはない少し古い文章語や、抽象的な概念を表すことばを用いた文章に慣れることが必要です。普段から小学生でも読める評論(例えば岩波ジュニア・ちくまプリマー・ブルーボックスなどの新書)、文学的な小説などを意識して読んでください。長編も出題されますが、慣れることで早く読めるようになります。また、新聞記事を読むことで現代社会の問題にも興味を持ってください。語彙が豊かになるだけではなく知識も増え、大人の文章に親しむことができます。

正しく解くためには、小説、評論のジャンルにかかわらず、問題文はもちろん、設問の読み取りは大切で、語彙の有無は大きく作用します。求められていることを限られた時間内に答えることを意識し、時間をはかって解答する練習をしてください。傍線部周辺を参考にして、とりあえず解答を作成していくのではなく、文章を確実に理解しキーワード、キーセンテンスを用いて記述問題に取り組み、練習することで書く力が身につけてきます。

社会

問題内容

配点

出題の意図

1 論述【地理分野】 日本の防災対策	4点	昨年度も各地で豪雨による災害が多く発生した。そのことを念頭に地理分野で大きく取り上げられるようになった防災施設に関する問いを設定した。
2 【地理分野】 東北地方の地理	20点	東日本大震災から年月がたち、東北地方への注目が薄れていく中、改めて東北地方に注目するべく東北地方の自然や産業について問うた。
3 【歴史分野】 奈良時代までの歴史	7点	上町台地にある本校の立地ともかかわる大阪平野の成立をリード文として、縄文時代から奈良時代までの歴史上の基本事項について出題した。
4 【歴史分野】 平安時代～中世の歴史	9点	平安京成立以後の京都に関する略年表にもとづいて、主に政治・対外関係・文化について出題した。
5 【歴史分野】年表問題	16点	1858年から1968年までを10年ごとに区切った略年表を用い、その間の政治経済・外交・文化を中心に問うた。
6 【公民分野】時事問題	24点	2017年に起こった日本と世界のできごとを出題した時事問題。日本と世界の出来事を問うた。

各問題講評（具体的に）

- 山間部における土砂災害と都市部における浸水被害という2つの視点での論述ができていたかをみた。7割以上の生徒が正しく論述できていた。空欄のままの生徒は10名程度であった。
- 全問正解の生徒が約半数であった。東北地方の緯度を問う問題の正答率が悪かったので、来年度は日本列島が地球のどのような位置にあるのかもしっかりと学習してほしい。
- 3・4大問3・4ともによくできていた。ただ、大問4の室町時代の文化を問う問題と山城国での民衆による自治の時期を問う問題の正答率が低かった。文化史については、時代・特色・作者・作品（建築物・絵画など）の組合せが理解できている必要があるため、他の時代についてもその点に気をつけて学習してほしい。
- 全問正解の生徒は少なかったが、7割以上は解けていた。ただし、現代史の経済分野については正答率が低かった。
- 世界分野では、アメリカ合衆国の大統領の政策についてはほぼ理解できていた。
日本分野では、水俣条約の内容理解と経済分野のエンゲル係数の理解ができていなかった。

次年度入試 アドバイス

1・2【地理分野】

地名、地理用語、都道府県の産業の特徴、日本とつながりが深い国々の文化の特徴などの問題以外にも、地理では様々な問題の形式が考えられます。統計やグラフ、地図や図表などを用いた問いにも解答できるように、暗記事項に頼らず、因果関係を理解し、応用問題に対応できるような学習を心がけてください。

3・4【歴史分野】

まずは、教科書をしっかりと読むことが大切です。用語の単純暗記では意味がありません。因果関係や内容をきちんと理解するように心がけて学習してください。特に、正誤問題は、そのような学習の積み重ねが正答につながります。

5【歴史分野】

暗記科目という認識が強いと思いますが、時代の流れが理解できていないと思われぬ落とし穴があります。よく教科書を読んだ上で用語を漢字で覚えて下さい。

6【公民分野】

時事問題は必ず出題されます。ふだんから新聞、インターネットの情報に興味を持って、日本と世界の出来事を比較・検討してください。

【全般】

全体の平均点が70%であり、想定通りであった。論述は2年連続の出題であり、事前に対策を行う生徒が多かったため、内容的にも良い解答が多かったのが印象的です。また、時事問題では、新聞やTVのニュース番組などをこまめにチェックし、少し難しい用語などは自分で調べて覚える習慣をつけてください。歴史では、今年も漢字の誤答や仮名書きにより点数を失う生徒が多くなりました。毎年、この欄にも書くように「漢字で正しく解答できる」生徒を求めていますので、あいまに物事をとらえず、しっかりとした知識を身につけて試験に臨めるように準備してください。

算数

問題内容

配点

出題の意図

1. 小問集合(①②③計算)	21点	四則混合の基本計算が正確にできるか。
2. 小問集合 (①割合の文章題②面積)	12点	①基本的な割合の文章題が解けるか。 ②正六角形に含まれる正三角形の面積比がわかるか。
3. 小問集合 (①旅人算②整数の素因数分解)	24点	①基本的な旅人算の文章題が解けるか。 ②整数の素因数分解を考え、条件を満たす整数を考えることができるか。
4. 文章題(規則性)	21点	白黒の碁石の並べ方の規則性を理解し、碁石の個数や条件を満たす図の1辺の個数を求めることができるか。
5. 立体図形 (最小公倍数・表面積・直方体の串ざし)	18点	直方体を積んで立方体を作るとき、表面積を計算できるか。この立方体に針金をさすとき、どのように針金がささっているか考えることができるか。
6. 文章題(場合の数)	24点	2人で行うカードゲームのルールを理解し、点数の計算や、同点になるときの場合の数を求めることができるか。

各問題講評

正答率(概算)

1. ①90%②90%③90% 2. ①70%②60%
3. ①78%②65%③40%④45%
4. ①75%②80%③65%
5. ①90%②70%③40% 6. ①98%②75%③1%

【講評】

- ①は、隣り合う2つずつを組にすると速い。②③は小数・分数を含む基本の計算である。いずれもよくできていた。
- ①条件から定価は3000円、原価は2000円とわかる。②対角線と正六角形の2辺でできる三角形の面積は網掛けの三角形の面積の3倍、正六角形の面積は対角線と正六角形の2辺でできる三角形の面積の6倍である。いずれもよくできていた。
- ①(ア)2人合わせて5400m走ったところですれちがう。
(イ)(ア)の結果から、兄はあと2400m、弟はあと3000m走ることになる。いずれもよくできていた。
②(ア)3×7、3×3×7、3×3×3×7、3×7×7、3×3×7×7の5つである。(イ)3×3×3×□の形をしている。□は3の倍数数ではないから、小さい方から7番目は□=10である。正答率がやや低かった。問題文の意味を正確に読み取ろう。
- 規則性(白黒の碁石を交互に並べる)の基本問題。よくできていた。
①次に並べる碁石は、その前の碁石より2個多い。黒の碁石の個数だけ数えると3+7+11+…+39となる。
②最後に並べた碁石の個数は1辺に17個だから16番目の図である。
③黒の碁石を最後に並べたことがわかる。並べた順に白黒の2列をセットにして数えて15セットあるから29番目の図である。
- ①立方体の1辺の長さは10、45、9の最小公倍数の90cmである。縦方向に9個、横方向に2個、高さ方向に10個積む。②直方体の表面積の180倍から、できた立方体の表面積を引く。③針金が直方体の面を通るごとに、針金が次の直方体にささっていく。直方体の内部には、直方体の境界になっている面が(9-1)+(2-1)+(10-1)=18あり、針金はこの18の面すべてにささっている。
このうち、1か所だけ辺(面と面の交わる場所)にささるのでここは面を重複して数えていることになり、結局、内部の面の17か所にささる。よって、18個の直方体にささっている。
①②はよくできていた。③も出題者の予想よりよくできていた。
- ①②ルールが理解できれば容易である。よくできていた。

③今年度の最難問で、正答率は1%だった。Aの得点は、ゲームを始める前より5点増えている。もし、Bから2回ともカードをもらったとするとAの得点は偶数点増えることになるから、A、Bは1回ずつカードをもらい、Aのもらったカードの数はBのもらったカードの数より5大きいことがわかる。Aが1回目、2回目にそれぞれ1、3、5、7、9、11、13を出してBにあげた場合、Bが何を出したかを考えるとよい。

次年度入試 アドバイス

計算力はすべての問題の基本であるから、早く正確にできるように練習しておこう。また、計算の工夫が自然にできるように、ふだんから心掛けて取り組んでおきたい。

合格点を取るために、計算問題は、式をながめて特徴をつかんでから、落ち着いて計算し全問正解しよう。
また、小問や、大問の①②は基礎的な問題が多いので、目頃から数多く基礎を練習し、迅速かつ確実に正解できるようにしておこう。

例年、大問の文章題は、型にはまった問題が少なく、公式や解法の丸暗記では解くことができない。問題文をしっかり読んで内容を十分に把握した上で、図を描いたり、書き並べてみたり、表・グラフ・ダイヤグラムを作って利用するなど、その場で解法の糸口を見出せるようふだんから思考力・試行力を養っておきたい。

平面図形の問題は、図形を並べ替えて面積を読み取ったり、裏返ししたり、折り返したり、対称性を利用したりといった特徴を活用できる目を養っておこう。

立体図形については、立体を積んだり傾けたり切ったりして、頭の中で立体が考えられるようにしたいものだ。必要な断面や展開図も描けるようにしておこう。

本校の過去の問題を見ればわかるように、決して難問・奇問(特に、小学校の学習指導要領の内容を超える分野)を練習する必要はない。標準レベルの問題を自分で十分に理解、納得して解くという勉強の姿勢が大切である。

理科

問題内容

配点

出題の意図

1 身近な生物の生活	20点	身近な生きもののくらしや生物のからだのつくり、また、近年環境問題となっている外来生物について問うた。
2 太陽の動きと光の進み方	22点	日光による影のでき方、季節による太陽の動きの違いなど、光に関係する天体現象の基本的な知識を問い、さらに、鏡による光の反射についての基本的な法則の応用力をはかった。
3 酸とアルカリの反応	20点	水溶液の性質を題材として、実験データをまとめた表をグラフ化し、それをもとに化学反応における反応物と生成物の量的関係を考察する力をはかった。
4 天体の見え方と地層	18点	南半球（オーストラリア）で観測できる天体と地形を、日本で観測される天体と地形に関する知識を活用して考えることができるかを問うた。

各問題講評

- 20点満点で平均は11点ぐらいであった。春の七草や渡り鳥に関する知識問題は確実に得点しておきたいところであるが、比較的よく出来ていたのは(6)と(8)であった。(4)②や(5)の文章で答える問題では、主語がないための確な表現ができていない解答文が多く見られた。(4)②では、選択番号が正しいのに理由文が誤っていると、選択番号は間違っているが理由文は正しいなど、論理的整合性のない解答が少なくなかった。(5)では「8月～9月でどのような処理を行うのか」と問われているのに、別の季節の事を書いた解答文が目立った。
- 22点満点で平均は8点ぐらいで、予想を下回る正答率だった。太陽の日周運動や影のでき方など、天体に関する基本的知識の習得・定着はできているが、天体運動をイメージするための空間把握が十分できていないと思われる解答が多かった。(3)以降の物理分野は、平面鏡による光の反射に関する発展的な内容で、基本的な法則を活用する力をみる問題であったが、正答率は低い結果となった。
- 20点満点で平均は13点ぐらいであった。酸とアルカリの反応の基本的な事項については理解度が高く、(1)～(4)はよく出来ていた。(5)のグラフを描く問いでは、「表の値はグラフ上に●で記す」という指示を読み取れていないグラフや、直線で結ぶべきところを折れ線や曲線で結んでいるグラフなど、グラフの描き方が不十分なものが多く見受けられた。
- 18点満点で平均は12点ぐらいであった。(1)～(3)はよく出来ていた。(4)、(6)の出来具合が得点の差にあらわれた。北半球と南半球では星座の形は違って見えるが、月の満ち欠けは変わらないことが解法のポイントである。(5)で「上弦の月」、(6)では「断層」という誤答が多かった。(7)では、侵食されやすい部分が削られ、侵食されにくい部分が残るといふ地形の変化を、リード文から読み解くのが難しかったようだ。

今年度は大問2の物理分野の配点が大きく、かつ正答率が

低かったため、平均正答率は54%と低くなった。理科に関する知識の習得はもちろん大事であるが、それを図やグラフなどを用いていろいろな角度から考察し、理解する学習が少し不足していると感じた。

次年度入試 アドバイス

理科は物理・化学・生物・地学の4つの分野に分かれています。例年ほぼ均等に出题されています。以下の点に注意し、4分野をかたよりのないよう勉強し、準備しておきましょう。

- 理科で学ぶ重要な「用語」や「化学式」、「単位」などは正しく理解して使えるようにすること。特に、用語は正確な漢字で書けるようにすること。
- 記述問題では、ポイントをおさえた確かな解答が要求される。そのためには、何について問われているのか(理由を問われているのか、現象を問われているのかなど)をしっかり把握する必要がある。また、理科の用語を用いて、適切な答え方で簡潔な解答文をつくること。必要な主語、目的語あるいは補語を省略しないこと。普段から書くことに慣れて文章力を身につけておくことも必要である。
- 教科書で扱われている実験については、実験操作の意味や意義をしっかり理解し、学校の授業では積極的に実験に参加すること。
- データの処理に関して、グラフの読み取りや作成に慣れ、ある程度のグラフは描けるようにすること。計算力をつける学習も大切である。
- 生活の中で体験する身近な科学現象などに日頃から関心を持つよう心がけ、なぜそのような現象が起こるのかを自分の言葉で説明できるようにしておくこと。
- 過去の入試問題を解いて、「問題形式」や「解答方法」などに慣れておくこと。その際には、時間を計って解答し、決められた時間内で問題文をしっかり読み取るトレーニングをしておくこと。